





会計帳簿

会派名 社会民主党

日	番号	摘要	収入額	支出額	残額	支出内訳(項目)										備考			
						研究研修費	調査旅費	資料作成費	資料購入費	広報費	広聴費	人件費	事務所費	その他経費	計				
31	66	資料購入費(新聞購読料松下議員)		3,565	2,535,850				3,565									3,565	
31	66	資料購入費(新聞購読料甲斐議員)		3,565	2,532,285				3,565									3,565	
31	67	広報費(印刷代外安東議員)		111,780	2,420,505					111,780								111,780	
31	68	広報費(印刷代高野議員)		196,560	2,223,945					196,560								196,560	
31	69	広報費(郵送代高野議員)		19,598	2,204,347					19,598								19,598	
31	70	広報費(郵送代高野議員)		23,780	2,180,567					23,780								23,780	
31	71	広報費(印刷代松下議員)		71,280	2,109,287					71,280								71,280	
31	72	広報費(切手代松下議員)		4,428	2,104,859					4,428								4,428	
31	73	広報費(印刷代柳秋議員)		143,208	1,961,651					143,208								143,208	
31	74	広報費(配布委託料柳秋議員)		104,960	1,856,691					104,960								104,960	
31	75	広報費(印刷代甲斐議員)		125,280	1,731,411					125,280								125,280	
31	76	広報費(切手代)		7,686	1,723,725					7,686								7,686	
31	77	広報費(印刷代馬見塚議員)		75,000	1,648,725					75,000								75,000	
31	78	広報費(配布委託料馬見塚議員)		87,820	1,560,905					87,820								87,820	
31	79	その他の経費(会派封筒代)		744	1,560,161									744				744	
31	80	その他の経費(金種指定支払手数料)		648	1,559,513										648			648	
31	81	その他の経費(封筒代高野議員)		3,872	1,555,641										3,872			3,872	
31	82	その他の経費(封筒代高野議員)		1,982	1,553,659										1,982			1,982	
31	83	その他の経費(燃料代日小田議員)		5,784	1,547,875										5,784			5,784	
31	83	その他の経費(燃料代高野議員)		2,347	1,545,528										2,347			2,347	
月計			0	1,039,935		6,000	24,430	697	22,051	971,380	0	0	0	15,377	1,039,935				
累計			4,800,000	3,254,472	1,545,528	86,000	1,240,790	697	95,178	1,689,635	0	0	0	142,172	3,254,472				

出張命令書兼支出調書


支出番号	第 48 号	会派代表者	経理責任者
平成30年7月 ¹⁹ 日 起票			
支出科目	調査旅費		
支出額	¥10,020		

1 出張者内訳	出張者氏名	旅費 (円)	確認印
	1 日小田 良二	5,010	
	2 宮邊 和弘	5,010	
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
2 用務先	7月20日 津久見市 (14時~)		
	7月21日 臼杵市 (9時~15時)		
3 出張期間	平成30年7月20日 から 平成30年7月 21日 (: ~ :) (泊 日)		
4 用務内容	第59回地方自治研究大分県集会及び分科会		
5 特記事項			

平成30年7月18日

総務課長 殿

会派名 社会民主クラブ

氏名 松下 清高 

旅 費 (変 更) 計 算 依 頼 書

下記のとおり調査研究活動のため出張いたしますので旅費計算をお願いいたします。

記

日 程	平成30年7月20日 ~ 平成30年7月21日
出張者	日小田 良二、宮邊 和弘
用務地	①津久見市 (7月20日 14:00~16:45) ②臼杵市 (7月21日 9:30~15:00)
用務内容	①②第59回地方自治研究大分研修会

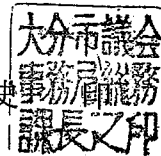
旅 費 計 算 書

経 路	7月20日 大分-津久見(用務)-大分 7月21日 大分-臼杵(用務)-大分												
旅費内訳	<table> <tr> <td>交通費</td> <td>3,360</td> <td>円</td> </tr> <tr> <td>宿泊料</td> <td>0</td> <td>円</td> </tr> <tr> <td>日 当</td> <td>1,650</td> <td>円</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>5,010</td> <td>円</td> </tr> </table>	交通費	3,360	円	宿泊料	0	円	日 当	1,650	円	計	5,010	円
交通費	3,360	円											
宿泊料	0	円											
日 当	1,650	円											
計	5,010	円											

上記のとおり通知いたします。

平成30年 7 月 19 日

総務課長 川野 洋 史



		日当	宿泊	乗換案内の 交 通 費
7/20	大分市→津久見市→大分市	—	—	1,880
7/21	大分市→臼杵市→大分市	1,650	—	1,480
		1,650	0	3,360

一人当たり旅費合計

5,010 /

- ※ 20日については、昼休みを挟んだ県内出張ではないため、日当は支給しない。
- ※ 21日については、用務地が臼杵市であり、移動及び用務を含めた時間が昼休みを挟んだ5時間以上となっているため、定額日当の半額を支給する。

大分 ~ 津久見 2018年7月20日(金) 13時30分 着

決定(取り込み)

経路	評価	時間	費用	距離
1	早安菜飛環	1時間 3分	940円	46.0km

経路 No.1

定期代

	2018/07/20	運賃	料金	距離
大分	12:25 駅宿	↑		↑
JR 日豊本線(佐伯行)	↓ 12:54 駅宿	63分	940円	46.0km
津久見	13:28 駅宿	↓		↓

津久見 ~ 大分 2018年7月20日(金) 17時0分 発 決定(取り込み)

経路	評価	時間	費用	距離
T 早安菜飛環		1時間 6分	940円	46.0km

経路 No.1

定期代

	2018/07/20	運賃	料金	距離
津久見	発 17:26 駅宿	↓	↓	↓
JR 日豊本線(亀川行)	↓ 発 17:26 駅宿	66分	940円	46.0km
大分	着 18:32 駅宿	↓	↓	↓

大分 ~ 臼杵 2018年7月21日(土) 9時10分 着

決定(取り込み)

経路	評価	時間	費用	距離
1	早安楽飛渡	55分	740円	36.3km
2	早安楽飛渡	40分	2,390円	36.3km

経路 No.1

定期代

	2018/07/21	運賃	料金	距離
大分	08:19 駅宿	●		●
JR 日豊本線(臼杵行)	↓ 発夕着夕	55分	740円	36.3km
臼杵	09:14 駅宿	●		●

臼杵 ~ 大分 2018年7月21日(土) 15時10分 発 決定(取り込み)



経路	評価	時間	費用	距離
1	早安茶飛鷹	51分	740円	36.3km
2	早安茶飛鷹	28分	2,390円	36.3km


経路 No.1

定期代


	2018/07/21	運賃	料金	距離
臼杵	発 15:45 駅宿	↑		↑
JR 日豊本線(大神行)	↓ 発 15:45 着 16:36	51分	740円	36.3km
大分	着 16:36 駅宿	↓		↓

出張命令書兼支出調書

支出番号	第 49 号	会派代表者	経理責任者
	平成30年7月 19日 起票		
支出科目	調査旅費		
支出額	¥5,410		

1 出張者内訳	出張者氏名	旅費 (円)	確認印
	1 松下 清高	5,410	
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
2 用務先	7月20日 津久見市 (14時~)		
	7月21日 津久見市 (9時~15時)		
3 出張期間	平成30年7月20日 から 平成30年7月 21日 (: ~ :) (泊 日)		
4 用務内容	第59回地方自治研究大分県集会及び分科会		
5 特記事項			

総務課長 殿

会派名 社会民主クラブ
氏名 松下 清高 

旅 費 (変 更) 計 算 依 頼 書

下記のとおり調査研究活動のため出張いたしますので旅費計算をお願いいたします。

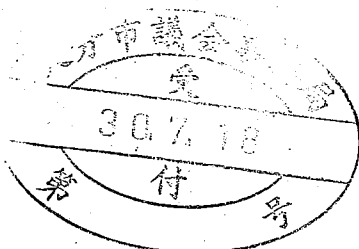
記

日 程	平成30年7月20日 ~ 平成30年7月21日
出張者	松下 清高
用務地	①②津久見市 (7月20日 14:00~16:45) (7月21日 9:30~15:00)
用務内容	①②第59回地方自治研究大分研修会

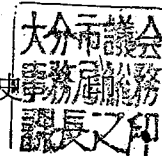
旅 費 計 算 書

経 路	7月20日 大分-津久見 (用務) -大分 7月21日 大分-津久見 (用務) -大分
旅費内訳	交通費 3,760 円
	宿泊料 0 円
	日 当 1,650 円
	計 5,410 円

上記のとおり通知いたします。



平成30年 7月 19日
総務課長 川野 洋史



		日当	宿泊	乗換案内の 交 通 費
7/20	大分市→津久見市→大分市	—	—	1,880
7/21	大分市→津久見市→大分市	1,650	—	1,880
		1,650	0	3,760

一人当たり旅費合計	5,410
-----------	-------

- ※ 20日については、昼休みを挟んだ県内出張ではないため、日当は支給しない。
- ※ 21日については、用務地が津久見市であり、移動及び用務を含めた時間が昼休みを挟んだ5時間以上となっているため、定額日当の半額を支給する。

大分 ~ 津久見 2018年7月20日(金) 13時30分 着 決定(取り込み)

経路	評価	時間	費用	距離
1	早安楽飛便	1時間 3分	940円	46.0km

経路 No.1

定期代

	2018/07/20	運賃	料金	距離
大分	発 12:25 駅宿	●	●	●
JR 日豊本線(佐伯行)	↓ 乗 降	63分	940円	46.0km
津久見	着 13:28 駅宿	●	●	●

津久見 ~ 大分 2018年7月20日(金) 17時0分 発 決定(取り込み)

経路	評価	時間	費用	距離
1	早安業飛鳥	1時間 6分	940円	46.0km

経路 No.1

定期代

	2018/07/20	運賃	料金	距離
津久見	17:26 駅宿	↓	↓	↓
JR 日豊本線(亀川行)	↓ 18:32 駅宿	↓	940円	46.0km
大分		↓	↓	↓

大分 ~ 津久見 2018年7月21日(土) 9時0分 着 決定(取り込み)

経路	評価	時間	費用	距離
1	早安楽飛渡	1時間 0分	940円	46.0km

経路 No.1

定期代

	2018/07/21	運賃	料金	距離
大分	07:11 駅宿	↓	↓	↓
JR 日豊本線(佐伯行)	07:11 駅宿	60分	940円	46.0km
津久見	08:11 駅宿	↓	↓	↓

津久見 ~ 大分 2018年7月21日(土) 15時30分 発

決定(取り込み)



経路	評価	時間	費用	距離
1	早安楽飛渡	1時間 2分	940円	46.0km





経路 No.1

定期代

	2018/07/21	運賃	料金	距離
津久見	15:34 駅宿	↓		↓
JR 日豊本線(大神行)	↓ 発夕着夕	62分	940円	46.0km
大分	16:36 駅宿	↓		↓


出張命令書兼支出調書

支出番号	第 50 号	会派代表者	経理責任者
	平成30年7月19日 起票		
支出科目	調査旅費		
支出額	¥7,520		

1 出張者内訳	出張者氏名	旅費 (円)	確認印
	1 安東 房吉	1,880	
	2 高野 博幸	1,880	
	3 帆秋 誠悟	1,880	
	4 馬見塚 剛	1,880	
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
2 用務先	7月20日 津久見市 (14時~)		
3 出張期間	平成30年7月20日 から 平成30年7月 20日 (: ~ :) (泊 日)		
4 用務内容	第59回地方自治研究大分県集会		
5 特記事項			

総務課長 殿

会派名 社会民主クラブ

氏名 松下 清高 

旅 費 (変 更) 計 算 依 頼 書

下記のとおり調査研究活動のため出張いたしますので旅費計算をお願いいたします。

記

日 程	平成30年7月20日
出張者	安東 房吉、高野 博幸、帆秋 誠悟、馬見塚 剛
用務地	津久見市 (7月20日 14:00~16:45)
用務内容	第59回地方自治研究大分研修会

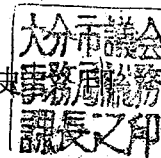
旅 費 計 算 書

経 路	7月20日 大分-津久見(用務)-大分
旅費内訳	交通費 1,880 円
	宿泊料 0 円
	日 当 0 円
	計 1,880 円

上記のとおり通知いたします。



平成30年7月19日
総務課長 川野 洋史



	日当	宿泊	乗換案内の 交 通 費
7/20 大分市→津久見市→大分市	—	—	1,880
	0	0	1,880

一人当たり旅費合計	1,880
-----------	-------

※ 昼休みを挟んだ県内出張ではないため、日当は支給しない。

大分 ~ 津久見 2018年7月20日(金) 13時30分 着 決定(取り込み)

経路	評価	時間	費用	距離
1	早安菜飛渡	1時間 3分	940円	46.0km

経路 No.1

定期代

	2018/07/20	運賃	料金	距離
大分	乗 12:25 駅宿	●		●
JR 日豊本線(佐伯行)	↓ 発夕着夕	63分	940円	46.0km
津久見	着 13:28 駅宿	●		●

津久見 ~ 大分 2018年7月20日(金) 17時0分 発

決定(取り込み)



経路	評価	時間	費用	距離
1	早安楽飛便	1時間 6分	940円	46.0km


経路 No.1

定期代

	2018/07/20	運賃	料金	距離
津久見	17:26 駅宿	↓	↓	↓
JR 日豊本線(亀川行)	↓ 18:32 駅宿	66分	940円	46.0km
大分	18:32 駅宿	↓	↓	↓

出張命令書兼支出調書


支出番号	第 51 号	会派代表者	経理責任者
	平成30年7月19日 起票		
支出科目	調査旅費		
支出額	¥1,480		

1 出張者内訳	出張者氏名	旅費 (円)	確認印
	1 甲斐 高之	1,480	
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
2 用務先	7月20日 白杵市 (9時半~12時15分) 21		
3 出張期間	平成30年7月21日 から 平成30年7月 21日 (: ~ :) (泊 日)		
4 用務内容	第59回地方自治研究大分県集会		
5 特記事項			

平成30年7月18日

総務課長 殿

会派名 社会民主クラブ

氏名 松下 清高 

旅 費 (変 更) 計 算 依 頼 書

下記のとおり調査研究活動のため出張いたしますので旅費計算をお願いいたします。

記

日 程	平成30年7月21日
出張者	甲斐 高之
用務地	臼杵市 (7月21日 9:30~12:15)
用務内容	第59回地方自治研究大分研修会

旅 費 計 算 書

経 路	7月21日 大分-臼杵 (用務) -大分
旅費内訳	交通費 1,480 円
	宿泊料 0 円
	日 当 0 円
	計 1,480 円

上記のとおり通知いたします。



平成30年 7月19日
総務課長 川野 洋史



		日当	宿泊	乗換案内の 交 通 費
7/21	大分市→臼杵市→大分市	—	—	1,480
		0	0	1,480

一人当たり旅費合計	1,480
-----------	-------

※ 昼休みを挟んだ県内出張ではないため、日当は支給しない。

大分 ~ 臼杵 2018年7月21日(土) 9時10分 着 決定(取込済み)

経路	評価	時間	費用	距離
1	早安楽飛機	55分	740円	36.3km
2	早安楽飛機	40分	2,390円	36.3km

経路 No.1

定期代

	2018/07/21	運賃	料金	距離
大分	乗 08:19 駅宿	●		●
JR 日豊本線(臼杵行)	↓ 降 駅宿	55分	740円	36.3km
臼杵	着 09:14 駅宿	●		●

臼杵 ~ 大分 2018年7月21日(土) 12時20分 発 決定(取り込み)





経路	評価	時間	費用	距離
1	早安楽飛渡	52分	740円	36.3km

経路 No.1

定期代

	2018/07/21		運賃	料金	距離
臼杵	発 12:23	駅宿	↓		↓
JA 日豊本線(日出行)	↓ 発 夕着夕		52分	740円	36.3km
大分	着 13:15	駅宿	↓		↓

支 出 調 書

支出番号	第  52 号	会派代表者	経理責任者
平成 30年 7月 31日 起票			
支出科目	研究研修 資料費 		
支出額	¥2,000 — /		
支出内容	自治研大分県集会参加資料代 /		
支出先	大分県地方自治研究センター		

領収書等貼付欄

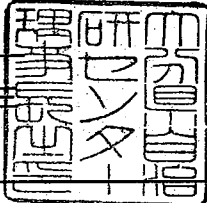
領 収 書

2018年7月20日

日小田 良二 様






¥ 2,000

但し、「第59回地方自治研究大分県集会」参加費(資料代)として
上記正に領収いたしました。

大分県地方自治研究センター
理事長 中山 敬 

領収書が複数の場合は裏面に貼付すること。

支 出 調 書

支出番号	第  53 号	会派代表者	経理責任者
平成 30年 7月  起票			
支出科目	研究研修 資料代費 		
支出額	¥2,000 — /		
支出内容	第59回地方自治研究大分県集会資料代 /		
支出先	大分県地方自治研究センター 理事長 中山 敬三		

領収書等貼付欄

領 収 書

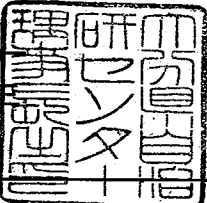
2018年7月20日

宮邊 和弘 様

¥ 2,000




但し、「第59回地方自治研究大分県集会」参加費(資料代)として
上記正に領収いたしました。

大分県地方自治研究センター
理事長 中山 敬三



領収書が複数の場合は裏面に貼付すること。

支 出 調 書

支出番号	第  54 号	会派代表者	経理責任者
平成 30年 7月 31日 起票			
支出科目	研究研修費		
支出額	¥2,000 ー		
支出内容	第59回地方自治研究大分県集会資料代		
支出先	大分県地方自治研究センター		

領収書等貼付欄

領 収 書

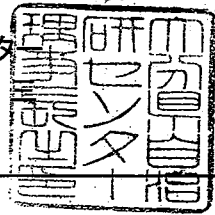
2018年7月20日

松下 清高 様

¥ 2,000





但し、「第59回地方自治研究大分県集会」参加費(資料代)として
上記正に領収いたしました。









大分県地方自治研究センター
理事長 中山 敬



領収書が複数の場合は裏面に貼付すること。


旅費精算兼旅行命令変更書

支出番号	第  55 号	会派代表者	経理責任者
平成 30年 7月  日 起票			
支出科目	調査旅費		
支出額	0 -		

1 出張者内訳	出張者氏名	旅 費 金 額			精算印
		精算前	精算後	差 額	
	1 日小田 良二	152,045	152,045	0	
	2 安東 房吉	152,045	152,045	0	
	3 高野 博幸	152,045	152,045	0	
	4 宮邊 和弘	152,045	152,045	0	
	5 松下 清高	152,045	152,045	0	
	6 帆秋 誠悟	152,045	152,045	0	
	7 甲斐 高之	152,045	152,045	0	
	8 馬見塚 剛	152,045	152,045	0	
2 用務先	7月10日 岡山市				
	7月11日 新潟市				
3 出張期間	平成30年7月10日から7月12日ま (2泊3日)				
4 旅 費	概算額	1,216,360	円		
	精算額	1,216,360	円		
	差 額	0	円		
5 用務内容	①岡山市ESDプロジェクト推進事業 ②新潟市12次産業化推進計画				
6 特記事項 (変更理由)	支出番号第 47 号				

総務課長 殿

会派名 社会民主クラブ

氏名 松下 清高 

旅 費 (変 更) 計 算 依 頼 書

下記のとおり調査研究活動のため出張いたしますので旅費計算をお願いいたします。

記

日 程	平成30年7月10日 ~ 平成30年7月12日
出張者	日小田 良二、安東 房吉、高野 博幸、宮邊 和弘、 松下 清高、帆秋 誠悟、甲斐 高之、馬見塚 剛
用務地	①岡山市 (7月10日 14:30~16:30) ②新潟市 (7月11日 14:30~16:30)
用務内容	①岡山ESDプロジェクト推進事業について ②新潟市1,2次産業化推進計画について

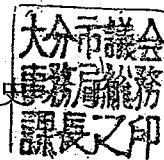
旅 費 計 算 書

経 路	7月10日 大分-小倉-岡山 7月11日 岡山-東京-新潟 7月12日 新潟-新潟空港-伊丹空港-大分空港-大分													
旅費内訳	<table border="0"> <tr> <td>交通費</td> <td>110,165</td> <td>円</td> <td rowspan="4">〔 航空運賃として 59,100円 〕</td> </tr> <tr> <td>宿泊料</td> <td>30,000</td> <td>円</td> </tr> <tr> <td>日 当</td> <td>11,880</td> <td>円</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>152,045</td> <td>円</td> </tr> </table>	交通費	110,165	円	〔 航空運賃として 59,100円 〕	宿泊料	30,000	円	日 当	11,880	円	計	152,045	円
交通費	110,165	円	〔 航空運賃として 59,100円 〕											
宿泊料	30,000	円												
日 当	11,880	円												
計	152,045	円												

上記のとおり通知いたします。



平成30年 6月 1日
総務課長 川野 洋



		日当	宿泊	乗換案内の 交 通 費
7/10	大分市→岡山市	3,960	15,000	28,270
7/11	岡山市→新潟市	3,960	15,000	21,360
7/12	新潟市→大分市	3,960	—	60,535
		11,880	30,000	110,165

一人当たり旅費合計

152,045

- ※ 11日の用務終了後、22時頃までに帰る便に間に合わないため、後泊とする。
- ※ 大分-新潟間については通し切符を購入し、岡山にて途中下車を利用する。
- ※ 参加人数が8名となっていることから、大分空港～大分間のエアライナーについては4枚券を利用する。

大分 ~ 岡山 2018年7月10日(火) 11時5分 発 決定(取り込み)

経路	評価	時間	費用	距離	
1	早安楽飛便	3時間 5分	19,630円	507.7km	28,270円
2	早安楽飛便	3時間 52分	14,780円	507.7km	

経路 No.1

	2018/07/10	運賃	料金	距離
大分	11:10 駅宿			
特ソニック24号	↓ 12:37 駅宿	87分 8420円	17060円 2800円グリーン席	132.9km
小倉	12:37 駅宿 乗換13分			
新のぞみ30号	↓ 12:50 駅宿	85分	8410円グリーン席	374.8km
岡山	14:15 駅宿			

※ 大分 - 小倉 - 岡山 - 東京 - 新潟間については
通し切符を購入し、岡山にて途中下車を利用する。

岡山 ~ 新潟 2018年7月11日(水) 8時0分 発 決定(取り込み)

経路	評価	時間	費用	距離
1	早安楽飛渡	5時間 48分	34,320円	1066.8km
2	早安楽飛渡	7時間 22分	24,250円	1066.8km
3	早安楽飛渡	11時間 38分	16,770円	

21,360円

経路 No.1

	2018/07/11	運賃	料金	距離
岡山	発 08:00 駅宿	0円		
新	のぞみ116号 ↓ 発 夕着夕	203分 12960円	12820円グリーン席	732.9km
東京	着 11:23 駅宿 乗換17分 発 11:40 駅宿	通し切符と 利用		
新	とき319号 ↓ 発 夕着夕	128分	8540円グリーン席	333.9km
新潟	着 13:48 駅宿			

新潟 ~ 大分 2018年7月12日(木) 11時0分 発 決定(取り込み)

経路	評価	時間	費用	距離
1	早安楽飛便	5時間 30分	61,060円	---
2	早安楽飛便	23時間 14分	48,150円	---
3	早安楽飛便	8時間 51分	48,460円	---
4	早安楽飛便	12時間 48分	34,750円	---
5	早安楽飛便	12時間 53分	34,680円	---

60,535円

経路 No.1

新潟/新潟駅南口

新潟空港線[新潟駅南口](新潟空港行)

新潟空港

飛 J-AIR2244便

伊丹空港

飛 J-AIR2365便

大分空港

大分空港線[別府・大分](エアライナー)(大分駅前行)

大分駅前/大分

2018/07/12

11:00 駅宿

↓ 発夕着夕

25分 410円

11:25 駅宿

↓ 発夕着夕照

65分

35000円 片道 505.0km

13:00 駅宿

↓ 発夕着夕照

55分

24100円 片道 352.0km

15:15 駅宿

↓ 発夕着夕

65分

1550円

15:25 駅宿

↓ 発夕着夕

65分

1025円

16:30 駅宿

運賃 料金 距離

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

領 収 書

クオダ リョウシ 様

金額		百万	拾万	万	千	百	拾	円
			7	5	9	1	0	0

摘要 航空券代金にて 7/12 新潟-伊丹 JAL224便
7/12 伊丹-大分 JAL2365便

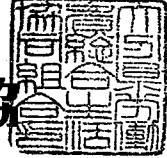


上記金額正に領収いたしました。

2018年 6月 25日



(大分県労働者総合生活協同組合)
大分県総合生協
大分市中央町4-1-32 ☎(097)548-5577



金額訂正及び取扱者名無きものは無効とす

領 収 書

アンドウ リョウシ 様

金額		百万	拾万	万	千	百	拾	円
			7	5	9	1	0	0

摘要 航空券代金にて 7/12 新潟-伊丹 JAL224便
7/12 伊丹-大分 JAL2365便

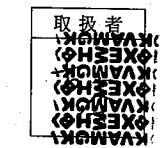
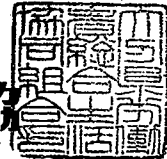


上記金額正に領収いたしました。

2018年 6月 25日



(大分県労働者総合生活協同組合)
大分県総合生協
大分市中央町4-1-32 ☎(097)548-5577



金額訂正及び取扱者名無きものは無効とす

領 収 書

カノ クロコキ 様

金額		百万	拾万	万	千	百	拾	円
			7	5	9	1	0	0

摘要 航空券代金にて 7/12 新潟-伊丹 JAL224便
7/12 伊丹-大分 JAL2365便

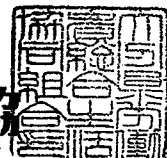


上記金額正に領収いたしました。

2018年 6月 25日



(大分県労働者総合生活協同組合)
大分県総合生協
大分市中央町4-1-32 ☎(097)548-5577



金額訂正及び取扱者名無きものは無効とす

領 収 書

ミヤハ アズキ 様

金額		百万	拾万	万	千	百	拾	円
			7	5	9	1	0	0

摘要 航空券代金 7/2 新潟-伊丹 JAL 224便
 7/2 伊丹-大分 JAL 236便

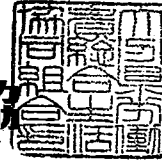


上記金額正に領収いたしました。

2012年 6月 25日



(大分県労働者総合生活協同組合)
大分県総合生協
 大分市中央町4-1-32 ☎(097)548-5577



金額訂正及び取扱者名無きものは無効とす

領 収 書

マツシタ キヨカ 様

金額		百万	拾万	万	千	百	拾	円
			7	5	9	1	0	0

摘要 航空券代金 7/2 新潟-伊丹 JAL 224便
 7/2 伊丹-大分 JAL 236便

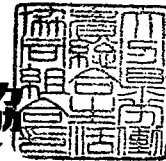


上記金額正に領収いたしました。

2012年 6月 25日



(大分県労働者総合生活協同組合)
大分県総合生協
 大分市中央町4-1-32 ☎(097)548-5577



金額訂正及び取扱者名無きものは無効とす

領 収 書

ホアキ セイゴ 様

金額		百万	拾万	万	千	百	拾	円
			7	5	9	1	0	0

摘要 航空券代金 7/2 新潟-伊丹 JAL 224便
 7/2 伊丹-大分 JAL 236便

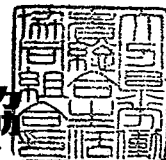


上記金額正に領収いたしました。

2012年 6月 25日



(大分県労働者総合生活協同組合)
大分県総合生協
 大分市中央町4-1-32 ☎(097)548-5577



金額訂正及び取扱者名無きものは無効とす

領 収 書

カイ タカコ 様

金額		百万	拾万	万	千	百	拾	円
			7	5	9	1	0	0

摘要 航空券代金にて 7/12 新潟-伊丹 JAL 2244便
 7/12 伊丹-大分 JAL 2365便

上記金額正に領収いたしました。

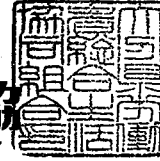
2012年 6月 25日



(大分県労働者総合生活協同組合)

大分県総合生協

大分市中央町4-1-32 ☎(097)548-5577



金額訂正及び取扱者名無きものは無効とす

領 収 書

マミツカ ツヨシ 様

金額		百万	拾万	万	千	百	拾	円
			7	5	9	1	0	0

摘要 航空券代金にて 7/12 新潟-伊丹 JAL 2244便
 7/12 伊丹-大分 JAL 2365便

上記金額正に領収いたしました。

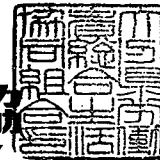
2012年 6月 25日



(大分県労働者総合生活協同組合)

大分県総合生協

大分市中央町4-1-32 ☎(097)548-5577



金額訂正及び取扱者名無きものは無効とす

会派代表者 殿

出張報告書

平成30年7月10日から7月12日まで出張しましたので
下記のとおり報告します。

会派名 社会民主クラブ

報告者 松下 清高



1 出張先	岡山県岡山市	
	新潟県新潟市	
2 用務	1. 岡山市「持続可能なまちづくりについて」	
	2. 新潟市「12次産業推進計画について」	
3 出張者氏名	1 日小田 良二	6 帆秋 誠悟
	2 安東 房吉	7 甲斐 高之
	3 高野 博幸	8 馬見塚 剛
	4 宮邊 和弘	9
	5 松下 清高	10
	4 研修調査等の内容	
<p>1. 岡山市「持続可能なまちづくり（ESDプロジェクト）」は、国連大学や市民からの働きかけにより、ヨハネスブルグサミットへの参加などをきっかけに、2005年岡山ESD推進協議会を設置。当初は、「環境保全」と「国際理解」をテーマとしていたが、公民館との連携を基に「地域コミュニティ」のかかえる身近な課題から持続可能な社会づくりを捉える視点へと重点化して取り組んでいる。平成26年には、「岡山市ESD推進条例」を施行、<u>27年</u>には「岡山ESDプロジェクト2015-2019」基本構想を策定し、ESDを「えー地球にしよーでえー」、「えーものを子孫の代まで」をキャッチフレーズに取り組んでいる。岡山ESDの特徴は、①地域を拠点とした市域全体での取組～公民館、ユネスコスクールを核に推進～、②あらゆる世代、多様な団体が参加、③専従コーディネーターや大学による継続的な支援をしていることである。</p>		
<p>2. 新潟市「12次産業化推進計画について」は、同市の農業の現状、農家戸数の減少や高齢化が進む一方、専業農家の増加や経営規模拡大が図られており、水田面積が全国第1位であることや農業産出額が全国第4位であるなど、農業の持つポテンシャルに着目し、「田園資源」を福祉や教育といった農業以外の分野に活用していくことで、新潟市らしい「地方創生」の取組を推進することとしている。具体的には、平成28年2月に「新潟市12次産業化推進計画」を策定し、27年度から34年度の8年間を計画期間とし、年度ごとに実施状況を把握、点検するとともに、社会経済状況の変化や進捗状況等を踏まえ、31年度を目途に内容の見直しを行うこととしている。12次産業化とは、農業の6次産業化に加え、豊富で豊かな田園資源を生活に密着する6つの分野（子育て、教育、福祉、保険、医療、エネルギー・環境、交流）を初めとする様々な分野に活用することである。また、優良事例啓発や表彰なども行って、普及、促進を図っている。</p>		

平成 30年 7月 20日

会派代表者 殿

出張報告書

平成 30年 7月 10日から 7月 12日まで出張しましたので
下記のとおり報告します。

会派名 社民クラブ

報告者 日小田 良二



1 出張先	岡山市・新潟市
2 用務	会派政策調査視察
3 出張者氏名	
<p>岡山市では、ESDプロジェクト基本構想に基づき、地球の未来について、共に学び、考え、行動する人が集う地域を目指し、環境・経済・社会の各分野において調和のとれた持続可能な社会の実現に貢献する取り組みを行っている。具体的には、学びが基本であることから教育委員会との連携、特に中学校区にある公民館（37館）に社会教育主事を配置し学びの場のコーディネートを行っている。拠点である公民館を中心に、地域での問題や課題を共有し、学び合い、主体性を持った地域活動から共生し支え合う地域社会へと繋げる活動を展開している。取り組み事例として、農業を通して地域の未来を考える活動や市民共同発電所の設置、NPOと大学とのスローライフ活動、企業との連携によるインクルーシブ教育への支援などがある。人づくりを始め、地域力による協働のまちづくりを進めるためには大変有効で効果的な取り組みであると感じた。</p> <p>新潟市では、12次産業化推進計画を策定し、農業の新たな価値の創造、産業・雇用の創出、地域への愛着と誇り、健康で生き生きと安心・安全に暮らせるまちづくりを目指している。田園資源と子育て・教育・福祉・保健、医療・エネルギー、環境・交流の6分野の連携による新たな価値の創造と課題の解決の取り組みは、食と農をはじめとした多彩な魅力発信や食と農の体験等を通じ地域のポテンシャルを上げるのに大変役に立つと考えられる。農業と他分野の連携を模索する上で、どのようなプラットフォームを目指すかが課題であると感じた。</p>	

出張報告書

社会民主クラブ

安東房吉



1. 出張先と用務

- (1) 2018年7月10日・・・岡山県岡山市
・用務「岡山ESDプロジェクトについて」
- (2) 2018年7月11日・・・新潟県新潟市
・用務「12次産業化について」

2. 研修調査等の内容

(1) 岡山ESDプロジェクト（岡山市）

1987年「環境と開発に関する世界委員会」が提唱した「持続可能な開発」(Sustainable Development)は、将来世代のニーズを満たしつつ、現在の世代のニーズも満足させるような開発という意味があり、世界中から支持されてきている。1992年「国連環境開発会議」では、この持続可能な開発の推進には、教育が重要な役割を果たすことが合意された。

そのための取り組みが「持続可能な開発のための教育」(Education for Sustainable Development: 略してESD)なのです。環境や開発、貧困・公正などの問題に対して理解を深め、個々人の価値観や思考・行動を変革させていくのです。

岡山市では、1980年代から、環境、女性、南北問題などに取り組む市民運動が継続していた。そのような中、市の環境保全施策として、1997年公民館を核としてエコミュージアムモデル事業、2001年市民と企業の協働で環境パートナーシップ事業を実施した。このような事業に取り組む背景には中学校区ごとに配置された公民館活動がある。

そして国連大学などからの働きかけで、ヨハネスブルグサミットに市が参加し、2005年に岡山ESDプロジェクトが始まった。研究教育機関、市民団体、事業者、行政などからなる岡山ESD推進協議会が組織され、岡山地域と地球の未来について共に考え、学び、行動する人が集う岡山地域を実現し、環境・経済・社会各分野において調和のとれた持続可能な社会の実現に貢献することを目指しています。

具体的には、公民館単位で、地域の障がい者や高齢者も安心して暮らせるための地域の絆づくりや活動、中学校単位でユネスコスクールに加盟をしたり、地域との交流で農業体験からその地域の未来を考えたり、岡山型一貫教育を、保護者や地域だけでなく、事業者や公民館などが横のつながりをつくることで、地域全体で子育てに関わるなどをしていきます。

これまで市民協働によるまちづくり、教育、環境保全施策、福祉などはそれぞれの立場での取り組みがされてきたが、一人の人は、生きる上で全てに関わるのであるから、より望ましい形になるよう、個々人が意識的に関わることは大切であろうと考えます。現在が良ければ良いのではなく、後世の世代にも伝えなければならない環境や文化、社会は大切にされなければならないと考えます。そういう意味からも、素晴らしい取り組みだと感じます。

本市においても、市民協働のまちづくりを発展的にするものとして、新たな視点になると考えます。

(2) 12次産業化について（新潟市）

水田面積が2万8400 ha、水稻の収穫量が13万3700トンと、共に全国で第1位

を誇る、まさに全国一の米どころと自他共に認める新潟市ならではの取り組みである。

12次産業化とは、これまで全国的に取り組まれている、農業の流通化を図る6次産業化に加え、豊かな田園資源を、子育て、教育、福祉、保健・医療、エネルギーの6分野をはじめ、様々な分野に活用する取り組みである。6次産業にプラスして6分野で12次産業としている。

具体的には、農業体験などを通しての食育や、消費者との交流の実施、障がい者の雇用促進事業、食品の開発支援を通して、健康づくりに配慮された食品開発、バイオマス資源の活用で、化石燃料の代替燃料化、都市型グリーンツーリズムの推進で観光に活用などが実施されている。

まさに田園資源を宝として、新潟市ならではの地域おこしをやっている感じです。これは本市においても、郊外の農業地域で可能な取り組みを多々あるし、現在部分的に実施していることもある。12次産業化という視点からの地域づくりも大切であろうと考える。

7月10日(火) 岡山市

【視察項目】岡山市持続可能なまちづくりについて

【所感】岡山市では、持続可能な社会の実現に向け、共に学び、考え、行動する人が集う地域づくりをめざして、岡山ESDプロジェクトを開始しました。

素晴らしいと思ったのは、岡山市が事務局としてESDコーディネーターを配置したことで、環境教育などのESDに関連する活動を展開していた組織がつながりネットワークができたことや、公民館を推進拠点として各中学校区でのESD活動が広がったことなどが「岡山モデル」として世界的にも注目されるようになったことです。

社会の担い手を育む教育は非常に重要なことで、本市でも参考にしながら、あらためて、持続可能な社会づくりに取り組んでいかなければならないと感じました。

7月11日(水) 新潟市

【視察項目】新潟市12次産業化推進計画について

【所管】新潟市では、平成27年度に「新潟市12次産業化推進計画」を策定し、官民一体となった取り組みを進めることをめざしています。12次産業化とは、農業の6次産業化の取り組みの加え、豊かな田園資源を、教育や福祉など生活に密着する6つの分野で活用することによって、地域課題の解決や新たな産業の創出をめざすものです。

取り組みの中で気になったのは、「新潟市健幸づくり応援食品認定制度」で、機能性に関する科学的報告がある成分を含む食品や、健康づくりに配慮された食品に対し、新潟市独自の認定を行う制度で、実施しているのは新潟市と北海道だけだそうです。いずれの取り組みも、新潟市の食と農のポテンシャルを最大限に活用した取り組みだと感じました。

社会民主クラブ 高野博幸

視察報告

社会民主クラブ 宮邊和弘

視察先 「岡山県岡山市」

視察項目 「岡山市におけるESDの推進について」

所感

私たちの住む地域は、これまで長い間多くの歴史を積み上げてきました。地域の持つ無限の可能性のもと、地域コミュニティの構築や経済活動によって発展を続け今の時代を生きています。しかし、地球上の資源が年々減少し人口減少社会が到来しています。また、自然災害が多発し住民の生活自体を脅かしています。安全で安心な持続可能な生活を営んで行くためにはこれまでの経験を生かし、しっかりと対応できる社会づくりに取り組まなければなりません。岡山市の取り組みは、地域の将来を見据え行政、市民、企業、有識者などがチームを組んで連携しながら持続可能な開発のための教育を目指しています。将来に向けて早期に取り組みを始めていくことの必要性を問いかけていると感じました。大分市においても、地域内分権や市民協働といった取り組みの延長として国際社会とも連携しながら共通する課題を解決し将来にわたって地域活動を実践し担う人材を育てる活動としてESDを推進することも重要だと感じました。

視察先 「新潟県新潟市」

視察項目 「新潟市における12次産業化の取り組みについて」

所感

新潟市では農業資源、特に田園資源を活かした街づくりに取り組んでいます。12次産業化とは、元来取り組んできた6次産業を元に田園資源と新潟市の取り組む課題を組み合わせることで地域を活性化出来ないかとの発想から子育て、教育、福祉、保健医療、エネルギー環境、観光交流の市民生活に密着する六つの分野で活用しようという取り組みです。市町村合併により政令市となっていますが、人口減少に歯止めが掛からず地域課題としては大分市と共通するものがあると思いますが、都市形態に相違があるため直接同じ取り組みは出来ません。しかし、大分市においても農業、漁業、商業、工業など各種産業が特色を活かした取り組みを進めていることから、連携して取り組める課題について新たな組織を作ることなどで対応することも可能だと考えます。大分市に合った施策として参考になる部分について今後調査研究を続けて行くことが重要です。

松	下	清	高	議	員		行	政	視	察	報	告	書						
【	視	察	期	間	】	平	成	30	年	7	月	10	日	～	7	月	12	日	
【	視	察	先	I	】		岡	山	県	岡	山	市							
							新	潟	県	新	潟	市							
【	視	察	事	項	】		岡	山	市	「	岡	山	市	持	続	可	能	な	ま
ち	づ	く	り	に	つ	い	て	」											
	新	潟	市	「	新	潟	市	12	次	産	業	化	推	進	計	画	に	つ	い
て	」																		
【	所	感	】		岡	山	市	の	取	組	の	き	っ	か	け	は	、	国	連
大	学	や	市	民	か	ら	の	働	き	か	け	で	あ	っ	た	こ	と	も	あ
り	、	当	初	の	テ	ー	マ	は	「	環	境	保	全	」	と	「	国	際	理
解	」	で	始	ま	っ	た	と	の	こ	と	。	そ	の	後	、	公	民	館	と
の	連	携	を	も	と	に	、	「	地	域	コ	ミ	ュ	ニ	テ	ィ	」	の	か
か	え	る	身	近	な	課	題	か	ら	持	続	可	能	な	社	会	づ	く	り
を	と	ら	え	る	、	こ	と	へ	視	点	を	重	点	化	し	た	こ	と	で
運	営	体	制	や	構	想	策	定	な	ど	、	取	組	が	体	系	づ	け	ら
れ	た	事	を	感	じ	た	。	さ	ら	に	、	学	校	や	企	業	、	事	業
者	で	の	取	組	推	進	、	優	良	事	例	の	顕	彰	な	ど	に	加	え
「	ESD	岡	山	モ	デ	ル	」	を	推	進	し	て	い	る	が	、	公	民	
館	を	拠	点	と	し	た	こ	と	が	大	き	な	特	徴	で	、	先	進	的

に	取	り	組	ま	れ	て	き	た	こ	と	は	、	大	分	市	に	お	け	る
今	後	の	取	組	の	参	考	と	な	る	も	の	で	あ	っ	た	。		
	新	潟	市	の	取	組	は	、	農	業	を	核	と	し	た	成	長	戦	略
と	し	て	、	田	園	型	の	政	令	市	で	あ	る	新	潟	市	ら	し	い
ま	ち	づ	く	り	(12	次	産	業	化)	に	よ	る	「	地	方	創	生
」	の	実	現	を	目	指	す	も	の	で	あ	る	。	田	園	資	源	と	子
育	て	教	育	、	福	祉	な	ど	の	生	活	に	密	着	す	る	6	つ	の
分	野	の	施	策	に	反	映	、	活	用	し	、	地	域	課	題	の	解	決
及	び	新	た	な	産	業	の	創	出	に	結	び	つ	け	よ	う	と	す	る
も	の	で	、	本	市	と	の	田	園	資	源	、	農	業	環	境	と	の	違
い	は	あ	る	も	の	の	、	持	続	可	能	な	社	会	と	自	然	の	活
用	に	つ	い	て	、	今	後	の	取	組	や	施	策	を	推	進	す	る	上
で	参	考	と	な	る	こ	と	を	感	じ	た	。							

視察報告

社会民主クラブ 帆秋 誠悟

・視察内容

1. 岡山市「岡山市におけるESDの推進について」
2. 新潟市「12次産業化の取り組みについて」

・所 感

(岡山市)

岡山市では、ESDの推進についての視察を行った。ESDとは、直訳で「持続可能な開発のための教育」の事であり、世界全体の取り組みとして、「将来の世代を誰もが安心してくらす持続可能な社会をめざして、様々な問題を自分の事にとらえ、あらゆる世代で学び合い、未来のことを考えよりよい地域づくりを行う人の輪を広げていく取り組み」の事である。

世界の流れとしては、1972年に「国連人間環境会議」が開催されたのをはじめとして、2005年には、日本政府及びNGOが提案した「国連ESDの10年が開始」され、2014年には岡山市と名古屋市において「ESDに関するユネスコ世界会議」を開催し、2015年には、ESDの新プログラムとして、国連持続可能な開発目標が2019年までを目標年次として採択されている。

岡山市は、2002年にヨハネスブルグサミットへ参加し、2005年からは岡山ESDプロジェクトを開始していた。また、1980年代から、環境、女性、南北問題などの市民活動が継続的に行われており、環境保全施策として、公民館を核にしたエコミュージアムモデル事業（1997）や、市民・企業協働の環境パートナーシップ事業（2001）を重点施策で実施してきており、そこには、中学校区ごとに社会教育主事が配置された公民館活動が盛んな背景もあった。公民館との連携をもとに「地域コミュニティ」のかかえる身近な問題から持続可能な社会づくりへの視点の重要性を広く認識した中での取り組みであった。岡山市ESDプロジェクト基本構想は、岡山市を中心としたその流域や都市圏も含めた地域でESD推進に賛同する各組織、団体、学校など全てを対象としたものとなっており、何れも中学校区公民館がその核となった展開となっていた。

大分市でも、「自分たちの地域は自分たちでつくる」精神の、市民協働のまちづくりが開始されて15年が経つが、これも全国に先駆けた素晴らしいまちづくりであり、岡山市も、地域の協働の精神のもとでESD活動を展開していることから、市民協働がまちづくりの根幹であることを強く確証した。今後の大分市としても、世界の動きに遅れることなくESD活動の展開が求められる。まずは、身近な環境問題をしっかり見つめていく事が肝要と思われる。

(新潟市)

新潟市では、12次産業化についての視察を行った。新潟市は農業を基幹産業として
いることから、まずはその概要から説明を受けた。新潟市は米どころとして有名であり、
水田面積と水稻の収穫量何れも全国一位であり、食糧の自給率も政令市のトップとなっ
ていた。他にも花き、野菜、豚、牛、生乳等の生産が多く、農業産出額でも全国四位となっ
ていた。

新潟市では、食と農のポテンシャルが高く、食に関する産学官の高度な教育・研究・支
援機関との連携を密にしていた。平成23年度からは「新潟ニューフードバレープロジェ
クト」を開始しており、農業を含めた食産業全体が連携し、共に成長産業としての発展を
続けてきた。

さらに、農業従事者の減少や高齢化を阻止し、農業の6次産業化の取り組みに加え、豊
富で豊かな田園資源を、生活に密着する6つの分野（子育て、教育、福祉、保健・医療、
エネルギー・環境、交流）をはじめとする様々な分野に活用して、新潟市の成長戦略とし
ての12次産業化を図り、新たな産業や雇用の創出と共に全ての市民が地域への愛着と誇
りを持ちながら、健康で生き生きと安心・安全に暮らせるまちづくりを目指すこととして
いた。

新潟市は、平成26年5月1日に、新潟ニューフードバレーの取り組みが評価され、「国
家戦略特区」にも指定されており、12次産業優良事例を表彰するなど、行政として積極
的な取り組みを展開してきたことが伺えた。今後は、防災の観点等も加えた12次産業プ
ラスアルファの施策も視野に入れており、今後の展開を注視していきたいと思う。

全国的に農業施策は予算的な事も含めて積極さに欠ける部分が多く見られるため、大分
市においても、国や県を見るだけでなく独自性を持った施策の展開が急務であると感じた。

甲斐高之議員 行政視察報告書

【視察期間】 平成30年7月10日(火)～7月11日(水)

【視察先】 岡山県岡山市

【調査項目】 「岡山市持続可能なまちづくり」について

【調査概要及び所感】

世界の様々な問題(自然災害の増大、格差や貧困の拡大など)に対して、共通の理念として「将来の世代を含む誰もが安心してくらす社会をめざす」をかかげ、これらの問題を自分のこととして捉え、あらゆる世代で学び合い、よりよい地域づくりに取り組む人の輪を広げ、未来のことを考え行動する人づくりの事業です。当初は、取り組みやすさを考慮し、「環境保全」と「国際理解」にテーマを公民館との連携を重点にスタートさせ、その中で「地域コミュニティ」のかかえる身近な課題へと視点を移していく計画性に感銘しました。この公民館単位の活動、連携を促進するために、中学校校区ごとに社会教育主事を配置している点が特にすばらしい制度だと感じました。社会教育主事の役割を明確にし、学びの場である公民館内の活動をコーディネートするといった「学びのループ」が構築されている点や協議会活動自体に係るすべての経費を市が負担すると役割を明確にしている点も大いに参考になる取り組みです。市民協働局との兼務といった担当の方にとっては負担が大きくなる人員配置になっている点は、今後の課題として検証する必要があると思います。

【視察先】 新潟県新潟市

【調査項目】 「新潟市12次産業化推進計画」について

【調査概要及び所感】

12次産業化とは、6次産業化の取り組みに加え、新潟市が有する広大な農地、恵み豊かな里山などの自然環境、そこから生み出される農作物や間伐材、それに携わる人材といった豊富で多様な田園資源を、「福祉」や「教育」など生活に密着する分野にも活かしていくことで、産業や雇用の創出を図るとともに、全ての市民が地域への愛着と誇りを持ちながら、健康で生き生きと安心・安全に暮らせるまちづくりを目指すものです。課題(ピンチ)を資源(ヒント)と結びつけ、地域課題の解決(チャンス)をはかっているという理念に大いに共感しました。6分野とは、「子育て」「教育」「福祉」「保健・医療」「エネルギー・環境」「観光・交流」の6つです。特に、子育てと関連させた「菌ちゃんリサイクル元気野菜づくり事業」は、大分市においても周辺地域で取り組める事業だと思います。また、保健・医療と関連させた「新潟市健幸づくり応援食品認定制度」は、現在策定中の「(仮称)健康づくり推進条例」にも大いに参考になる事業だと感じました。

社会民主クラブ 馬見塚剛議員 行政視察報告書

【視察期間】平成30年7月10日(火)～12日(木)

【視察先】 岡山県岡山市

【調査事項】岡山市持続可能なまちづくりについて

【調査概要及び所感】

(所感) 岡山市の持続可能なまちづくりでは、まず初めにESDとは、将来の世代を含むだれもが安心して暮らせる持続可能な社会をめざして、様々な問題を自分の事としてとらえ、あらゆる世代で学び合い、未来のことを考えよりよい地域づくりを行う人の輪をひろげていく取り組みである。岡山市では2005年に岡山ESD推進協議会は設置され、プロジェクト開始となっており、運営体制は行政だけでなく、岡山県、大学・高校・公民館・企業など連合組織となっており、取り組みを通じて地域に確実に根の張った事業となっている。本市においても、地域づくりは大変重要な課題であり、柔軟な発想と工夫が必要と感じました。



【視察先】 新潟県新潟市



【調査事項】新潟市12次産業化推進計画について

【調査概要及び所感】

(所感) 新潟市の12次産業化とは農業の6次産業の取り組みに加え、豊富で豊かな田園資源を生活に密着する6つの分野(子育て、教育、福祉、保健・医療、エネルギー・環境、交流)を活用し、新たな産業や雇用の創出、市民が地域で愛着と誇りを持ちながら、健康で暮らせるまちづくりを目指す推進計画となっている。新潟市は米の生産量が日本一を誇り生産・加工・販売を一体的に進めてきた経過もあり、その基本に新たな分野をミックスし、推進をおこなっている。子育て分野では、野菜づくり事業、食育などの取り組みを行っており、効果として地域の交流や子育てを応援する気運の醸成などの報告があった。本市においても、新潟市のような地域事情に合わせて取り組みが必要と感じました。


旅費精算兼旅行命令変更書

支出番号	第 58 号	会派代表者	経理責任者
平成30年 7月31日 起票			
支出科目	調査旅費		
支出額	0 -		

1 出張者内訳	出張者氏名	旅費金額			精算印
		精算前	精算後	差額	
1	日小田 良二	5,010	5,010	0	 
2	宮邊 和弘	5,010	5,010	0	
3					
4					
5					
2 用務先	7月20日 津久見市 (14時~)				
	7月21日 臼杵市 (9時~15時)				
3 出張期間	平成30年 7月20日から 7月21日ま (泊日)				
4 旅費	概算額	10,020	円		
	精算額	10,020	円		
	差額	0	円		
5 用務内容	第59回自治研大分県集会及び分科会				
6 特記事項 (変更理由)	支出番号第48号				

平成30年7月18日

総務課長 殿

会派名 社会民主クラブ
氏名 松下 清高 

旅 費 (変 更) 計 算 依 頼 書

下記のとおり調査研究活動のため出張いたしますので旅費計算をお願いいたします。

記

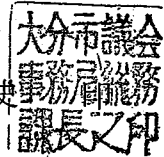
日 程	平成30年7月20日 ~ 平成30年7月21日
出張者	日小田 良二、宮邊 和弘
用務地	①津久見市 (7月20日 14:00~16:45) ②臼杵市 (7月21日 9:30~15:00)
用務内容	①②第59回地方自治研究大分研修会

旅 費 計 算 書

経 路	7月20日 大分-津久見(用務)-大分 7月21日 大分-臼杵(用務)-大分												
旅費内訳	<table border="0"> <tr> <td>交通費</td> <td>3,360</td> <td>円</td> </tr> <tr> <td>宿泊料</td> <td>0</td> <td>円</td> </tr> <tr> <td>日 当</td> <td>1,650</td> <td>円</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>5,010</td> <td>円</td> </tr> </table>	交通費	3,360	円	宿泊料	0	円	日 当	1,650	円	計	5,010	円
交通費	3,360	円											
宿泊料	0	円											
日 当	1,650	円											
計	5,010	円											

上記のとおり通知いたします。

平成30年7月19日
総務課長 川野 洋史



		日当	宿泊	乗換案内の 交 通 費
7/20	大分市→津久見市→大分市	—	—	1,880
7/21	大分市→臼杵市→大分市	1,650	—	1,480
		1,650	0	3,360

一人当たり旅費合計

5,010 円

- ※ 20日については、昼休みを挟んだ県内出張ではないため、日当は支給しない。
- ※ 21日については、用務地が臼杵市であり、移動及び用務を含めた時間が昼休みを挟んだ5時間以上となっているため、定額日当の半額を支給する。

大分 ~ 津久見 2018年7月20日(金) 13時30分 着

決定(取り込み)

経路	評価	時間	費用	距離
1	早安楽飛便	1時間 3分	940円	46.0km

経路 No.1

定期代

	2018/07/20	運賃	料金	距離
大分	発 12:25 駅宿	↓	↓	↓
JR 日豊本線(佐伯行)	↓ 乗車	63分	940円	46.0km
津久見	着 13:28 駅宿	↓	↓	↓

津久見 ~ 大分 2018年7月20日(金) 17時0分 発 決定(取り込み)

経路	評価	時間	費用	距離
1	早安菜飛長	1時間 6分	940円	46.0km

経路 No.1

定期代

	2018/07/20	運賃	料金	距離
津久見	乗 17:26 駅宿	●		●
JR 日豊本線(亀川行)	↓ 乗 17:26 駅宿	66分	940円	46.0km
大分	着 18:32 駅宿	●		●

大分 ~ 臼杵 2018年7月21日(土) 9時10分 着 決定(取り込み)

経路	評価	時間	費用	距離
1	早安楽飛渡	55分	740円	36.3km
2	早安楽飛渡	40分	2,390円	36.3km

経路 No.1

定期代

	2018/07/21	運賃	料金	距離
大分	全 08:19 駅宿	●		●
JR 日豊本線(臼杵行)	下 発夕着夕	55分	740円	36.3km
臼杵	着 09:14 駅宿	●		●

臼杵 ~ 大分 2018年7月21日(土) 15時10分 発

決定(取り込み)

経路	評価	時間	費用	距離
1	早安楽飛渡	51分	740円	36.3km
2	早安楽飛渡	28分	2,390円	36.3km

経路 No.1

定期代

	2018/07/21	運賃	料金	距離
臼杵	15:45 駅宿	↑		↑
JA日豊本線(大神行)	↓ 16:00 駅宿	51分	740円	36.3km
大分	16:36 駅宿	↓		↓

会派代表者 殿

出張報告書



平成 30 年 7 月 20日から 7月21日まで出張しましたので
下記のとおり報告します。


会派名 社民クラブ

報告者 日小田 良二

1 出張先	津久見市、臼杵市	
2 用務	地方自治研究大会	
3 出張者氏名	日小田 良二	6
	2	7
	3	8
	4	9
	5	10
<p>初日は開会行事と講演があり、講演では九州大学の嶋田暁文氏による「平成の大合併の総括」と題しての内容だった。合併の背景、国の方針、自治体の取り組み状況等の検証が報告された。合併結果として検証の困難性を強調されことと必要性については明快な結論までには至らなかったとの総括だった。市町村数の変遷として3200自治体から1700自治体へと激減。平成の大合併は何をもたらしたのかは、①自治体の行財政や役所内の被説明変数としての効果、②組織体制の充実強化、③行政の情報把握力・課題対応能力の低下、④財政規律の弛緩、⑤財政ブレンド効果、⑥周辺部の衰退、⑦周辺部の政治的代表的喪失、⑧旧・自治体の個性の喪失、⑨災害対応力の低下、⑩自治体の「見えぬ化」などが挙げられた。これからの問題提起として、地域運営組織と結節の仕組みの構築、人口の安定化、自治体職員としての役割の重要性などが挙げられた。</p> <p>2日目は、自治体自立分科会に参加した。分科会では、基調講演①「グローバリゼーションと地域経済」（京都女子大学、鳥谷一生教授）、②として「新自由主義グローバリゼーションの地方公共サービスへの影響」（山口大学、山本勝也教授）の話があった。自主レポートとして、自治体財政、中期財政計画、地方創生、少子化対策、県政・市政報告の取り組み、犬の殺処分減少への歩み、ふるさと納税返礼品制度について、などの報告がされ、それぞれ質問と意見交換等が行われた。</p>		

旅費精算兼旅行命令変更書


支出番号	第 57 号	会派代表者	経理責任者
平成30年7月3/日 起票			
支出科目	調査旅費		
支出額	0 -		

1 出張者内訳	出張者氏名	旅 費 金 額			精算印
		精算前	精算後	差 額	
1	松下 清高	5,410	5,410	0	
2					
3					
4					
5					
2 用務先	7月20日 津久見市 (14時~)				
	7月21日 津久見市 (9時~15時)				
3 出張期間	平成30年7月20日から7月21日ま (泊日)				
4 旅 費	概算額	5,410	円		
	精算額	5,410	円		
	差 額	0	円		
5 用務内容	第59回自治研大分県集会及び分科会				
6 特記事項 (変更理由)	支出番号第49号				

平成30年7月18日

総務課長 殿

会派名 社会民主クラブ

氏名 松下 清高 

旅 費 (変 更) 計 算 依 頼 書

下記のとおり調査研究活動のため出張いたしますので旅費計算をお願いいたします。

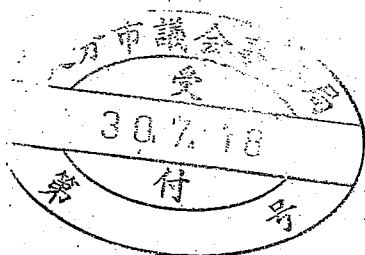
記

日 程	平成30年7月20日 ~ 平成30年7月21日
出張者	松下 清高
用務地	①②津久見市 (7月20日 14:00~16:45) (7月21日 9:30~15:00)
用務内容	①②第59回地方自治研究大分研修会

旅 費 計 算 書

経 路	7月20日 大分-津久見 (用務) -大分 7月21日 大分-津久見 (用務) -大分
旅費内訳	交通費 3,760 円
	宿泊料 0 円
	日 当 1,650 円
	計 5,410 円

上記のとおり通知いたします。



平成30年 7月19日
総務課長 川野 洋史



		日当	宿泊	乗換案内の 交 通 費
7/20	大分市→津久見市→大分市	—	—	1,880
7/21	大分市→津久見市→大分市	1,650	—	1,880
		1,650	0	3,760

一人当たり旅費合計

5,410

- ※ 20日については、昼休みを挟んだ県内出張ではないため、日当は支給しない。
- ※ 21日については、用務地が津久見市であり、移動及び用務を含めた時間が昼休みを挟んだ5時間以上となっているため、定額日当の半額を支給する。

大分 ~ 津久見 2018年7月20日(金) 13時30分 着 決定(取り込み)

経路	評価	時間	費用	距離
1	早安楽飛渡	1時間 3分	940円	46.0km

経路 No.1

定期代

	2018/07/20	運賃	料金	距離
大分	発 12:25 駅宿	●		●
JR 日豊本線(佐伯行)	↓ 終 63分	●	940円	46.0km
津久見	着 13:28 駅宿	●		●

津久見 ~ 大分 2018年7月20日(金) 17時0分 発 決定(取り込)

経路	評価	時間	費用	距離
1	早安菜飛長	1時間 6分	940円	46.0km

経路 No.1

	2018/07/20	運賃	料金	距離
津久見	17:26 駅宿	↓	↓	↓
JR 日豊本線(亀川行)	↓ 18:32 駅宿	↓	↓	↓
大分		↓	↓	↓

66分 940円 46.0km

津久見 ~ 大分 2018年7月21日(土) 15時30分 発

決定(取り込み)

経路	評価	時間	費用	距離
1	早安楽飛夏	1時間 2分	940円	46.0km

経路 No.1

定期代

2018/07/21

運賃	料金	距離
●	●	●

津久見

15:34 駅宿

JR 日豊本線(大神行)

↓ 16:36

62分 940円

46.0km

大分

16:36 駅宿

●

●

平成30年 7月20日

会派代表者 殿

出張報告書

平成30年 7月20日から 7月21日まで出張しましたので
下記のとおり報告します。



会派名 社会民主クラブ





報告者 松下 清高



1 出張先	大分県津久見市	
2 用務	第59回地方自治大分県集会全体集会及び分科会	
3 出張者氏名	1 松下 清高	6
	2	7
	3	8
	4	9
	5	10
4 研修調査等の内容	<p>地方公共サービスを担う関係者が一堂に会して、人口減少、少子高齢社会が進展する中で、状況の変化に対応した新しい時代にふさわしい公共サービスの提供に向けた取組の成果などを共有することなどを目的とした本集会に参加した。の。まず、全体集会では九州大学大学院の嶋田暁文教授が、「平成の大合併の総括的検討」と題しての基調講演があり、平成の大合併が急速に進んだ背景や合併による住民、自治体の行財政への影響などを検証し、現状の問題点や課題等を明らかにすることで、今後の自治体のあり方、住民との関わりなど、事例などを交えながら解説され、自治体行財政の運営、住民自治の必要性等を理解することができた。また、二日目の分科会は、「地域福祉」に参加。当分科会は「福祉における協働・ネットワークの仕組みと市民参加の手法」等をテーマとして、各市町村の障がい者の就労と雇用促進、豪雨災害対応、障がい者のインクルーシブ防災の取組などの事例や現場での実践活動を踏まえた報告があった。特に別府市の障がい者インクルーシブ防災の取組については、町内会での避難訓練に障がい者も参加し、津波を想定して高台に車いす利用者や自力歩行が困難な方を、住民が協力してリヤカーで避難させるためには、より安全で、効率的な工夫が必要であることなどが認識できたこと。また、日頃から当事者、家族が地域の方々と顔の見える関係を構築することの重要性が改めて確認できたことなど、この訓練に参加した方々に理解が深まったとの報告は、各地域での災害時要配慮者に対する支援などの仕組み作りに参考となるものを強く感じたところである。</p>	

旅費精算兼旅行命令変更書


支出番号	第 58 号	会派代表者	経理責任者
平成30年 7月31日 起票			
支出科目	調査旅費		
支出額	0 -		

1 出張者内訳	出張者氏名	旅 費 金 額			精算印
		精算前	精算後	差 額	
	1 安東 房吉	1,880	1,880	0	
	2 高野 博幸	1,880	1,880	0	
	3 帆秋 誠悟	1,880	1,880	0	
	4 馬見塚 剛	1,880	1,880	0	
	5				
2 用務先	7月20日 津久見市 (14時~)				
3 出張期間	平成30年 7月20日から 7月20日まで (泊 日)				
4 旅 費	概算額		7,520	円	
	精算額		7,520	円	
	差 額		0	円	
5 用務内容	第59回自治研大分県集会				
6 特記事項 (変更理由)	支出番号第50号				

平成30年7月18日

総務課長 殿

会派名 社会民主クラブ

氏名 松下 清高 

旅 費 (変 更) 計 算 依 頼 書

下記のとおり調査研究活動のため出張いたしますので旅費計算をお願いいたします。

記

日 程	平成30年7月20日
出張者	安東 房吉、高野 博幸、帆秋 誠悟、馬見塚 剛
用務地	津久見市 (7月20日 14:00~16:45)
用務内容	第59回地方自治研究大分研修会

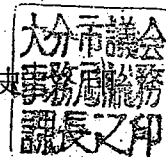
旅 費 計 算 書

経 路	7月20日 大分-津久見(用務)-大分
旅費内訳	交通費 1,880 円
	宿泊料 0 円
	日 当 0 円
	計 1,880 円

上記のとおり通知いたします。



平成30年7月19日
総務課長 川野 洋史



	日当	宿泊	乗換案内の 交 通 費
7/20 大分市→津久見市→大分市	—	—	1,880
	0	0	1,880

一人当たり旅費合計	1,880
-----------	-------

※ 昼休みを挟んだ県内出張ではないため、日当は支給しない。

平成30年7月25日

会派代表者 殿

出張報告書

平成30年7月20日から7月20日まで出張しましたので
下記のとおり報告します。

会派名 社会民主党

報告者 安東 泰吉



1 出張先	大分県 津久見市	
2 用務	自治研究大会	
3 出張者氏名	1 2 3 4 5	6 7 8 9 10
4 研修調査等の内容	* 別紙参照	

【出張報告書】

2018年7月27日

社会民主クラブ

安東房



1, 出張日時

2018年7月20日(金) 14:00～

2, 場所

◎大分県津久見市 市民文化会館

3, 内容

◎自治研究大会・講演「(演題) 平成の大合併の総括的検討」

◎講師 嶋田暁文氏(九州大学大学院法学研究院教授)

4, 所感

開会式に続いて、「平成の大合併」の総括的検討」という演題で、九州大学大学院法学研究院教授・嶋田暁文氏の講演があった。

講演の内容は次の通りである。平成の大合併を行った理由は、小規模自治体が多ければ分権改革で高まる都道府県知事の権限を弱め、中央政党的政策的影響力を強めるためなど、幾つか考えられ、小規模自治体の「救済」が図られたという面はあるものの、周辺部の衰退と政治的代表的喪失による「声の封殺」という、「居住前線縮小」となったことが言える。声を失い居住前線の縮小となった周辺部は、このまま推移すれば一層活気が失われ、人口も減り続けるであろう。

人口の減少は、農作物の収穫や出荷、鳥獣対策、草刈りなどの農林地管理、祭りの開催、病院までの移動など生活支援等、お願いでき頼れる人が減ることになり、人々はその地域で安心して暮らせなくなる。そうなれば、人々はその地域から出て行かざるを得なくなり、周辺部にある農山漁村は消滅する。

こうした事態を回避するには、一定程度人口が減っても、安心して暮らし続けることができる地域を実現することである。そのための方策が次の2つ考えられる。

- ①各集落間を、小学校区単位等で結び付け、ネットワークの数を増やす取り組みがある。できれば製品製造、販売、飲食業、宿泊業、預かり保育サービス、公共施設の指定管理などの事業を通じての資金確保と仕事づくりが行われることが期待される。しかしこれは地域住民だけで行うのは容易でなく、地域おこし協力隊はじめ外部とのつながりも重要となる。(島根県雲南市の例)
- ②島根県中山間地域研究センターによれば、地域人口を安定させるには、毎年地域人口の1%の定住増加人数が必要とされている。そのためには、子連れ夫婦(30代)、若者夫婦(20代)、60歳前半の夫婦が毎年2.4組流入することが計算上必要となる。その方策としては、仕事の確保がネックであり、例えば、地域で製造された食

品を確実に地域住民が消費（地産地消）すれば、食品製造という仕事が確保でき、そのための人口流入も図られると言う考えである。そこには、安上がりな行政を求めるのではなく、地域での経済循環破壊しない取り組みとIターン者や外部の者を受け入れる仕組み作りなど、行政の取り組みが大切である。（大分県安心院の例）

本自治研究大会では、この講演を基調として、次の日、「地域主権と地方分権改革」などのテーマで、分科会が開催され、各地域の実践報告がされた。

2018年 7月25日

会派代表者 殿

出張報告書

平成30年7月20日から7月20日まで出張しましたので
下記のとおり報告します。

会派名 社会民主クラブ

報告者 高野 博幸



1 出張先	津久見市民会館	
2 用務	地方自治研究大分県集会	
3 出張者氏名	1 高野 博幸	6
	2	7
	3	8
	4	9
	5	10
4 研修調査等の内容	<p>「平成の大合併」の総括的検討について、九州大学大学院法学研究院「嶋田暁文」教授から講演をいただいた。平成の大合併の結果、自体体数は、約半分近くにまで減少し、小規模自治体が減少した。確かに、合併自治体の財政効率化は図られず、むしろ財政規律の弛緩が生じたが、他方で「財政ブレンド効果」を通じて小規模自治体の救済が図られたという面もある。合併とはいわば「離婚できない結婚」であり、合併を解消することで「時計の針を戻す」という選択肢は非現実的である。とすれば、「人口が一定程度減っても、安心して暮らし続けることができる地域」を実現していくほかないだろう。</p> <p>今回の講演会で、市町村合併は地方自治体や住民、地域になにをもたらし、今後どうしていくのかについて学びました。</p>	

30年7月27日

会派代表者 殿

出張報告書

平成30年7月20日から 月 日まで出張しましたので
下記のとおり報告します。



会派名 社会民主クラブ


報告者 馬見塚 剛



1 出張先	津久見市民会館	
2 用務	地方自治研究大分県集会	
3 出張者氏名	1 馬見塚 剛	6
	2	7
	3	8
	4	9
	5	10
4 研修調査等の内容		
<p>全体集会に参加し、「平成の大合併の総括的検討」の講演会に参加しました。日本の人口減少、少子高齢化社会に突入し、経済の高度成長は望めない上に人口オーナスにより社会保障負担が重圧となり、地域社会の活力が失われかねない社会に突入しており、地方では過疎地等の集落人口に占める65歳以上の割合は、5割を超える集落が2割超となっている。持続可能な地域社会の創造は、地域間特性や基盤が異なる中で中山間地域や離島を中心とした過疎化・高齢化の急速な進行、都市・地方を問わず景気悪化による地元産業の低迷や中心市街地などの著しい衰退に、どのように対応していくかが求められる。社会と自治体を取り巻く状況の変化、住民や地域社会のニーズを受けとめ、この変化に市民や地域社会、全国の先進的で実践的な試みなど課題を議論しながらの講演会でありました。</p>		


旅費精算兼旅行命令変更書

支出番号	第 59 号	会派代表者	経理責任者
平成 30 年 7 月 31 日 起票			
支出科目	調査旅費		
支出額	0 -		

1 出張者内訳	出張者氏名	旅 費 金 額			精算印																		
		精算前	精算後	差 額																			
1	甲斐 高之	1,480	1,480	0																			
2																							
3																							
4																							
5																							
2 用務先	7月21日 臼杵市 (9時半~12時15分)																						
3 出張期間	平成30年7月20日から7月20日まで (泊 日)																						
4 旅 費	<table border="0" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:30%; border-bottom: 1px solid black;">概算額</td> <td style="width:20%; text-align: right; border-bottom: 1px solid black;">1,480</td> <td style="width:10%; text-align: right; border-bottom: 1px solid black;">円</td> <td style="width:10%;"></td> <td style="width:10%;"></td> <td style="width:10%;"></td> </tr> <tr> <td style="border-bottom: 1px solid black;">精算額</td> <td style="text-align: right; border-bottom: 1px solid black;">1,480</td> <td style="text-align: right; border-bottom: 1px solid black;">円</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="border-bottom: 1px solid black;">差 額</td> <td style="text-align: right; border-bottom: 1px solid black;">0</td> <td style="text-align: right; border-bottom: 1px solid black;">円</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					概算額	1,480	円				精算額	1,480	円				差 額	0	円			
概算額	1,480	円																					
精算額	1,480	円																					
差 額	0	円																					
5 用務内容	第59回自治研大分県集会																						
6 特記事項 (変更理由)	支出番号第52号																						

総務課長 殿

会派名 社会民主クラブ

氏名 松下 清高 

旅 費 (変 更) 計 算 依 頼 書

下記のとおり調査研究活動のため出張いたしますので旅費計算をお願いいたします。

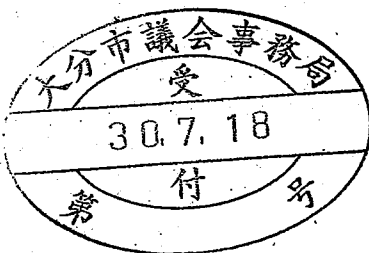
記

日 程	平成30年7月21日
出張者	甲斐 高之
用務地	白杵市 (7月21日 9:30~12:15)
用務内容	第59回地方自治研究大分研修会

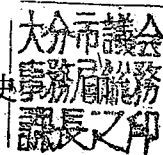
旅 費 計 算 書

経 路	7月21日 大分-白杵(用務)-大分
旅費内訳	交通費 1,480 円
	宿泊料 0 円
	日 当 0 円
	計 1,480 円

上記のとおり通知いたします。



平成30年 7月19日
総務課長 川野 洋史



		日当	宿泊	乗換案内の 交通費
7/21	大分市→臼杵市→大分市	—	—	1,480
		0	0	1,480

一人当たり旅費合計	1,480
-----------	-------

※ 昼休みを挟んだ県内出張ではないため、日当は支給しない。



大分 ~ 臼杵 2018年7月21日(土) 9時10分 着 決定(取り込み)

経路	評価	時間	費用	距離
1	早安楽飛渡	55分	740円	36.3km
2	早安楽飛渡	40分	2,390円	36.3km

経路 No.1








		2018/07/21			定期代	
大分		08:19	駅宿	運賃	料金	距離
JR	日豊本線(臼杵行)	↓	発着	55分	740円	36.3km
臼杵		09:14	駅宿			

臼杵 ~ 大分 2018年7月21日(土) 12時20分 発 決定(取り込み)

経路	評価	時間	費用	距離
 		52分	740円	36.3km

経路 No.1

定期代

	2018/07/21	運賃	料金	距離
臼杵	 12:23 	↓	↓	↓
 日豊本線(日出行)	 ↓ 		52分	740円
大分	 13:15 	↓	↓	↓

会派代表者 殿

出張報告書

平成30年7月21日から 月 日 まで出張しましたので
下記のとおり報告します。

会派名 社会民主クラブ




報告者 甲斐 高之



1 出張先	臼杵市中央公民館 大ホール	
2 用務	地方自治研究大分県集会	
3 出張者氏名	1 甲斐 高之	6
	2	7
	3	8
	4	9
	5	10
4 研修調査等の内容	<p>第7分科会「環境自治体」に参加。午前中は第5分科会「子ども」と合同開催。子ども・子育て支援法の実施による影響を把握し、より質の高い保育・幼児教育のための改善点や各地の取り組みが報告されました。その中で、公立施設の民営化・統廃合の合理化について、各施設における非正規職員の現状と課題も共有することができました。また、食の安全・安心、給食での地産地消の取り組み方など保育所・幼稚園・学校給食での食育活動を通じて、どのように自治体として役割を果たしていくのか考えさせられました。</p> <p>「別府市公立保育所の給食の取り組み」レポートからは、年長児クラスでの調理員との合同クッキングの紹介があり、安全面に最大限に配慮しながら苦労は多いものの、年齢に合わせた食に触れさせる体験で意義ある取り組みとなっていると感じました。これも直営の自園調理だからできることです。改めて自園調理を維持していくことの大切さを確認できました。</p> <p>「あまがせ保育園の食育の取り組み」レポートでは、職員総出の畑の土づくりからスタート。野菜作りには土づくりがいかに大切かを経験がない職員自らが体験し学ぶことで、子どもたちのその後の土や野菜に対する関わりに大きく影響することが語られました。こうした食育を行う上で、保育士はもとより調理員の協力が不可欠になります。しかし現存するすべての園で調理員が全員臨時職員であるという実態。子どもたちの安心・安全・笑顔を保障して、継続した取り組みを進めていく上でも職員の安定した雇用体制の必要性を再認識しました。</p>	

様式第2号

支 出 調 書

支出番号	第  60 号	会派代表者	経理責任者
平成 30年 7月 31日 起票			
	資料作成費		
支出額	¥697 —		
支出内容	プリンター (カラリオEP-979A3)インクカートリッジ購入代金		
支出先	ケーズデンキ春日浦店		
領収書等貼付欄			

領収書が複数の場合は裏面に貼付すること。

新製品が安い
KS ケーズデンキ

お買上げ明細

2018年 7月 5日(木) 10時38分

【お名前】 (3179000073172)
 マツダ 株式会社
 松下 清高 様
 会員番号 0530012559916

<明細>

1 ●インクカートリッジ エプソン 4988617193987 ICLM80 5%値引対象	1点	¥697
	1点/合計 (内消費税等)	¥697 ¥51)

[0533179-053023757-2310004330231]

領収証

2018年 7月 5日(木) 10時38分

様
金額 ¥697
 (内消費税等 ¥51)
 但し、お品代として
 上記金額正に領収致しました。

<決済内訳>

現金	¥697 (内消費税等 ¥51)
現金お預かり お釣り	¥1,007 ¥310

ケーズデンキ春日浦店
 電話番号 097-540-5353
 販売担当者

店コード 2200005331798
 売上伝票番号 2310004330231

支 出 調 書

支出番号	第 6 / 号	会派代表者	経理責任者
平成 30年 7月 31日 起票 /			
支出科目	資料購入費		
支出額	¥630 — /		
支出内容	THE21 7月号		
支出先	(株)晃星堂書店		


領収書等貼付欄

領 収 証

日小田 良二 様

金額	¥	630	現 収
			旧 入
			前 金


書 名	号 数	単 価	金 額
THE 21	7月 /	630	630

係名  上記金額正に領収致しました
平成30年 7月 20日

収
入
印
紙


〒870-0035 大分市中央町2丁目 電話533-0231

株式会社 晃 星 堂 書 店

代表取締役 後 藤 知 己 

領収書が複数の場合は裏面に貼付すること。

支 出 調 書

支出番号	第 62 号	会派代表者	経理責任者
平成 30年 7月 31日 起票 /			
支出科目	資料購入費		
支出額	¥1,026 — /		
支出内容	ガバナンス6月号		
支出先	㈱ぎょうせい		

領収書等貼付欄

振込金受領証
(金融機関・コンビニエンスストア用)

払込人氏名
日小田 良二
様

お問い合わせ番号
709131952

金額 1,026
内消費税額 76

受取人
株式会社ぎょうせい

振込先
みずほ銀行 東京営業部
普通 4913720
かぎヨウセイ

受領印

印紙貼付欄
2034
8.7.30
受領日附印

(お客様控)

領収書が複数の場合は裏面に貼付すること。

2018
6
No.206 June

特集

スキルアップ特集

平成につぼんの首長





自治・地域再興

早稲野

早稲野

早稲野

支 出 調 書

支出番号	第 63 号	会派代表者	経理責任者
平成30年7月31日 起票			
支出科目	資料購入費		
支出額	¥2,700 - /		
支出内容	教育新聞購読料(7月) /		
支出先	株式会社 日本教育新聞社		

No. 052717

領 収 証

高野 博幸 様

金額 ¥2,700-

但し購読料 30/7月~30/7月として


平成 30年 4 月 12 日 (コンビニエンスストア払)

上記の金額正に領収致しました

印 収
紙 入

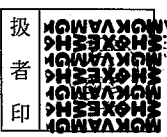
株式会社 日本教育新聞社

東京都港区虎ノ門 8
〒105-8436 電話 03-3581-28



日本教育新聞



扱
者
印



※上記発行先・金額の訂正は無効です。

領収書が複数の場合は裏面に貼付すること。

支 出 調 書

支出番号	第 64 号	会派代表者	経理責任者
平成30年 7月31日 起票			
支出科目	資料購入費		
支出額	¥2,680 —		
支出内容	「週間エコノミスト」(5/29号~6/19号分) 購入代金として		
支出先	(株) 晃星堂書店		
領収書等貼付欄			


領収書が複数の場合は裏面に貼付すること。

領 収 証

松下 清高 様

金額	¥	670	現 収
			旧 入
			前 金

内 訳	書 名	号 数	単 価	金 額
		週刊エコノミスト	6/9	1

係名  上記金額正に領収致しました
平成30年 7月 20日

収入印紙

〒870-0035 大分市中央町2丁目 電話533-0231

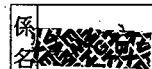
株式会社 **晃星堂書店**
代表取締役 後藤 知己 

領 収 証

松下 清高 様


金額	¥	670	現 収
			旧 入
			前 金

内 訳	書 名	号 数	単 価	金 額
		週刊エコノミスト	6/5	1

係名  上記金額正に領収致しました
平成30年 7月 20日

収入印紙

〒870-0035 大分市中央町2丁目 電話533-0231


株式会社 **晃星堂書店**
代表取締役 後藤 知己 

領 収 証

松下 清高 様


金額	¥	670	現 収
			旧 入
			前 金

内 訳	書 名	号 数	単 価	金 額
		週刊エコノミスト	6/2	1

係名  上記金額正に領収致しました
平成30年 7月 20日

収入印紙

〒870-0035 大分市中央町2丁目 電話533-0231

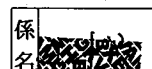
株式会社 **晃星堂書店**
代表取締役 後藤 知己 

領 収 証

松下 清高 様


金額	¥	670	現 収
			旧 入
			前 金

内 訳	書 名	号 数	単 価	金 額
		週刊エコノミスト	6/9	1



係名  上記金額正に領収致しました
平成30年 7月 20日

収入印紙

〒870-0035 大分市中央町2丁目 電話533-0231

株式会社 **晃星堂書店**
代表取締役 後藤 知己 

支 出 調 書

支出番号	第 65 号	会派代表者	経理責任者
平成 30年 7月 31日 起票 ✓			
支出科目	資料購入費		
支出額	¥4,320 — ✓		
支出内容	日刊「しんぶん赤旗」7月分 ✓		
	「しんぶん赤旗」日曜版 7月分 ✓		
支出先	日本共産党 中部地区委員会		

領収書等貼付欄

甲斐 高之 様		日本共産党発行の しんぶん赤旗 領収書	
新聞・雑誌名	部数	金額	4,320 円
日刊「しんぶん赤旗」	1	3,497	2018 年 7 月分
「しんぶん赤旗」日曜版	1	823	
上記の金額たしかにいただきました。 ありがとうございました。 〒870-0935 大分市古ヶ鶴1-4-20 中部地区委員会 TEL 097-558-1627			7/30
領収日	抄		

領収書が複数の場合は裏面に貼付すること。